

ビッグピクチャーを描く

山形商工会議所議員
高橋 雅宣氏



山形市あこや町の小さな貸事務所でイベント企画会社を開設したのは、もう38年も前のことになる。当時、デザイン専門の事務所はあったが、イベントをプラスした

会社は山形にはなかった。そこで「ハイスタッフ」の名称だけでは何を手掛ける会社か一般には皆目見当がつかないだろうと考えて、ハイスタッフの前に企画の2文字を入れた。今日では同じ志を持つ会社も数多く、まさに隔世の感がする。

山形松坂屋に8カ月勤めたのち、縁あって凸版印刷山形営業所で広告関係の仕事を手伝っていた。創業したのは24歳10カ月の時。第二次石油ショックで世の中は不景気の真ただ中。もう少し待ってみたらどうか、という声があったが、これ以上景気が落ち込むことはない、どん底から出発するのも悪くはないだろうと考えた。

若さゆえ為せる事とは言っても、自分自身デザインを学んだわけではないし、イベントのノウハウをマスターしていたのでもない。ただ、「所詮個人の能力には限りがある。しかし、いろんな分野で優れた技術、能力を持つ人材を集めることは可能。自分に欠けている能力を補佐するため、仕事

に応じハイレベルの人をコーディネートできれば」とスタートした。社名「ハイスタッフ」命名の由縁でもある。言い換えれば人とのつながりを大切にし、仲間を集めて何かやってみようという思いでもあった。

会社設立後、山形商工会議所の下部組織青年経営者懇談会に参加。さらに懇談会が発展し設立された青年部の初期メンバーに加わった。清野伸昭会頭、野々村政昭氏をはじめとする先輩経営者、川合勝芳氏(曙印刷代表)、新関芳則氏(丸八やたら漬社長)、佐藤善三郎氏(乃し梅本舗佐藤屋専務)、東北電化工業の稲田雅俊氏の知遇を得ることができ、そうしてこの9月20日に開催される日本一の芋煮会フェスティバル創設に携わった。

今は記憶の彼方に忘れ去られているが、「2000年の冬季五輪を蔵王に」という誘致活動にも参加した。当時の新聞記事を一部紹介すると「蔵王スキー場を中心とした山形冬季五輪の実現に向け、山形市の経済界を含む民間団体が山形市議会に正式に請願書を提出した」。「蔵王温泉組合は再開発や自然保護という課題を克服して蔵王五輪に夢を託そう。誘致活動を通じて誇りの持てる古里づくりを進め、日本一の観光地を目指す」と高らかに宣言した」と報じられている。

1986(昭和61)年のことで、私たち青年部は山形初市で誘致への理解を市民に訴え、歩行者天国で賑わう東京・渋谷の東急百貨店前で、のぼり旗を掲げ都民にアピールした。残念ながら五輪開催地は長野市に決まり、夢は幻に終わったが、このたびの蔵王温泉の風評被害を目の当たりにするにつけ、思い切ったビッグプロジェクトを掲げることが必要ではないだろうか。

過日、会議所観光サービス部会の副部会長を仰せつかった。伊勢和正部会長の下、一つのプロジェクトを計画している。「まるごと山形 祭りだワッショイ」と銘打って、六魂祭のパレード会場で県内の祭りを一堂に会し、併せてストリートパフォーマンスや料亭でのおもてなしを組み合わせ、山形を盛り上げようという案だ。できれば来秋、県内外から多くのランナーが集まる山形まるごとマラソン前日に開催したいと考えている。苦境に立たされている今こそ、それぞれの方が、それぞれの能力を持ち寄り「ビッグピクチャー」を描く。そんな気概を持ち続けたいと思っている。

(株)ハイスタッフ代表取締役社長